

平成29年度 10月号



新座市立第二中学校
新座市野火止 7-17-10
電話 048-477-1212

新座二中だより

<http://www.c-niiza.ed.jp/j-daini/>

「事上磨練の決意をした者にのみ、自信は宿る」を根付かせます

校長 田村 和昭

秋分の日も過ぎ暑さも一段落、心地よい気候となりました。気が付けば、2学期に入り早や一月です。

新人体育大会朝霞地区予選会も始まり、生徒会本部・各種専門委員会も改選を迎えるなど、1, 2年生が3年生からバトンを受け、いよいよ学校を牽引する時となりました。存分に力を発揮して欲しいと思います。

3年生には、自分の進路に向けた確かな足取りを応援しています。



学び続けることの大切さ

江戸末期の儒学者である佐藤一斎の著書「言志晩禄」第60条には、三学戒と言われる有名な言葉があります。

若くして学べば、

則ち壮にして為すことあり

壮にして学べば、則ち老いて衰えず

老いて学べば、則ち死して朽ちず

これを現代語に直しますと次のようになります。

「子どものころにしっかり勉強しておけば、大人になってそれを活用し重要な仕事を成し遂げることができる。大人になってからもさらに学び続ければ、老年になって

もその力は衰えることがない。

老年になってからもなお学ぶことをやめなければ、死んだ後も自分の意志や業績は残り、次の人々にも引き継がれていく。」

おそらくこの一文ほど、学び続けることの大切さを説いたものはないのでは、と思われまます。

事上磨練

「自信を持って人生を生きなくて、何が人生か」と言うことがあります。そのためには、自分を磨くしか方法がありません。勉強すれば、自と志が生まれ、信念となり、自信を持って実践ができるようになります。

自信は、心の問題でもあります。生まれた時から身に付いているものでもありません。自らが自らの手で身に付けるものです。日々、一つ一つの細かなことを直視して鍛えていくものなのです。事上磨練の決意をした者にのみ、自信は宿ります。

毎日の学びや経験、生活を無駄にしないということです。そして、時には頑張っている自分を褒めてみてください。これも特に大切です。

事上磨練

実際に行動や実践を通して、知識や精神を磨くこと。中国、明代の王陽明（ようめい）が学問の修養について、日常の行為を離れて思索する静座に対して、実際の日常の行動をこなし、これを通して修養するのが真の学問であると述べた説。

※「事上」は実際のことに当たりながらの意。「磨練」は練り磨く意。